



AIについて

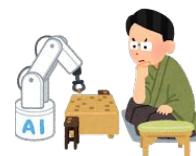
身の回りにある「AI」

2022年11月に「ChatGPT」が公開されました。これは、質問や会話を打ちこむと、AIが適切な答えを返してくれるサービスです。応答がまるで人間が書いたような自然な文章だったことから非常に注目されました。現在はビジネスなどでも活用されています。

AIと聞くと「ChatGPT」のような対話型をイメージする人も多いかもしれませんが、実は、身のまわりの電化製品にもAIが使われているものが数多くあります。「中にある食材からメニューを考えてくれる冷蔵庫」、「家具や段差を検知しながら床を掃除するロボット掃除機」、「室内や室外の温度をもとに室温と湿度を調整するエアコン」など、それぞれの場面で人間の活動を助けています。

AIの特徴の1つに、さまざまなデータを「学習」する能力が挙げられます。

AIは、与えられたデータからさまざまなルールを見つけます。例えば「耳がとがっていてしっぽが長い生き物は猫」といったものです。このルールをもとに、新しいデータについて予測や判断を行うことができます。



例えば将棋であれば、AIが自己対局で得たデータを用いて高度な戦略を学ぶことで、AIは強くなっているのです。この「機械学習」の進化によってAIにできることが広がり「ChatGPT」のように進化したAIによるサービスが誕生しています。

AIの発展で未来はどうなる？

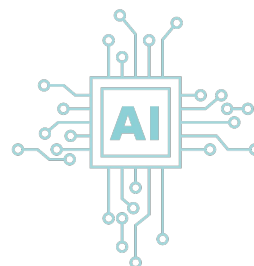
「学習」することで進化を続けるAIは、今後より発展していきます。

AI研究者のなかには、AIの進化が続くことで2045年頃に人間の能力をAIが超える、と唱える人もいます。「シンギュラリティ(技術的特異点)」と呼ばれるものです。

この「シンギュラリティ」が起これば、人びとの生活にAIがより深く浸透し、人間の仕事は多くがAIやロボットに代わられると考えられています。

ただ、これまでも新しい技術が開発されると、ある仕事がなくなるとともに新しい仕事が生まれてきました。

少子高齢化が進み、働き手が少なくなっていることを考えると「AIにできることはAIに任せ、人間が優位なことは人間が行う」と考えたほうが、AIと共存して仕事をしていく未来を描くことになるのかもしれません。



「人間だからできること」とは何か

「人間だからこそできること」とはどのようなもののでしょうか。

以下のような能力が求められる仕事は、AIをはじめとする機械では対応しにくいと考えられています。

- 高度なコミュニケーション能力
- 抽象的な概念を整理して新しいものを創造する力
- 状況に応じて判断する力



↓過去の情熱通信はこちらから！

具体的には医師や看護師、教師などのように、相手とコミュニケーションをとりながら目標に向かって進む仕事や、さまざまな分野で「クリエイター」と呼ばれているような、作品を新たに生み出す仕事などは人間ならではの強みが活かされています。

自分にできること、得意なことを大切にしながら、やってみたい仕事を考えてみましょう。

